

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築数学	昼間	1 年 前 期	必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築計画、建築環境工学、建築法規等で取り扱う数学的項目の習熟度を向上させるための				
	基礎的な考え方や手法を理解させることを目的とする。				
講義・演習 の内容	教科書の單元ごとに講義・演習という形で進める。特に、建築分野で必要な数学知識を				
	習得するための問題を中心に演習を行う。				
教科書	超入門 建築数理（市ヶ谷出版社）				
参考書	初学者シリーズ「建築構造力学」「建築環境工学」「建築法規」（市ヶ谷出版社）				
	「考え方・進め方 建築墨出し」（オーム社）				
関連科目	建築数理、建築構造力学Ⅰ・Ⅱ、建築環境工学				
成績評価 方法	中間および期末試験・必要に応じて行う小テスト・出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回	授業内容				
第1回	確認テストの振り返り（ミニテスト）				
第2回	第1章 単位の仕組、様々な単位				
第3回	第2章 四則計算（階段の計算等）				
第4回	//				
第5回	第2章 分数を含んだ計算（建ぺい率※・容積率等）				
第6回	//				
第7回	第2章 比の計算・公式の代入（傾斜路・屋根勾配・採光面積・換気量※）、3章 角度と長さ				
第8回	//				
第9回	第2章 公式の代入（断面の性質：断面一次モーメント・断面二次モーメント）				
第10回	//				
第11回	第2章 比例・反比例（照明計算・熱損失）				
第12回	//				
第13回	問題演習（中間試験対策）と総まとめ				
第14回	//				
第15回	中間試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築数理	昼間	1 年 前 期	必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築計画、建築環境工学、建築法規等で取り扱う数学的項目の習熟度を向上させるための				
	基礎的な考え方や手法を理解させることを目的とする。				
講義・演習 の内容	教科書の單元ごとに講義・演習という形で進める。特に、建築分野で必要な数学知識を				
	習得するための問題を中心に演習を行う。				
教科書	超入門 建築数理（市ヶ谷出版社）				
参考書	初学者シリーズ「建築構造力学」「建築環境工学」「建築法規」（市ヶ谷出版社）				
	「考え方・進め方 建築墨出し」（オーム社）				
関連科目	建築数理、建築構造力学Ⅰ・Ⅱ、建築環境工学				
成績評価 方法	中間および期末試験・必要に応じて行う小テスト・出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回	授業内容				
第1回	(中間試験、返却と解説) / 第4章 1Dの建築事象(三角比・測量(水準測量))				
第2回	第5章 2Dの建築事象(面積計算)				
第3回	//				
第4回	第6章 3Dの建築事象(体積計算)				
第5回	//				
第6回	第7章 様々な事象(縮尺計算・天井高)				
第7回	//				
第8回	第8章 測量(閉合比)、力の建築事象(力の合成分解・力のモーメント)				
第9回	//				
第10回	第8章 力の建築事象(力のつりあい)、分布荷重				
第11回	//				
第12回	2級建築士 過去問(単純梁、トラス、分布荷重)				
第13回	//				
第14回	問題演習(期末テスト対策)と総まとめ				
第15回	//				
第16回	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
パソコン基礎	昼間	1 年 前 期	必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	文書作成・表計算・プレゼンテーションのビジネスソフトウェアを使用して、キー操作・印刷まで含めたパソコン操作の基礎を習得する。				
	使用ソフトはMicrosoft Office (Word,Excel,PowerPoint)				
講義・演習 の内容	教科書の課題を実際に作成しながら、パソコンの使用方法・用語などを解説する。				
	作成したパワーポイントのスライドを使用して、プレゼンテーション発表会を行う。				
教科書	30時間でマスター Office2021 (実教出版)				
参考書					
関連科目	建築CAD演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
成績評価 方法	出席率、授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。				
授業計画					
授業回	授業内容				
第1回	パソコンの基礎知識 (キーボード、ファイルの保存)、Windows11、Edge				
第2回	Word 1・2				
第3回	Word 3～9				
第4回	Word 10～12 (例題18)				
第5回	Word 13・14 表の挿入 (実習6)、15 案内チラシの作成 (実習7)				
第6回	Excel 1～5				
第7回	Excel 6～9,11関数 (SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK.EQ) ,%、小数部,ROUNDUDOWN (例題35)				
第8回	Excel 10グラフ、工程表の作成				
第9回	Excel 工程表の作成				
第10回	Excel 13 Excelの便利な機能 (並び替え、セルの結合) (例題35、例題50)				
第11回	Excel 15 WordにExcelを貼り付ける (例題35)				
第12回	PowerPoint 1～11 機能全般、12 スライドショーの作成、テーマ決め				
第13回	PowerPoint プレゼンテーションスライドの作成				
第14回	PowerPoint プレゼンテーションスライドの作成				
第15回	プレゼンテーション発表会				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築入門講座	昼間	1 年 前 期	必修	2	島田 勤
授業目的 及び 到達目標	本講義の目的は、建築の分野および仕事の内容、資格の内容及びその必要性について基礎的な内容を理解することを目的とする。また、今後の専門科目についてスムーズに理解できるようするとともに将来の仕事への意識付けすることを到達目標とする。				
講義・演習 の内容	下記の講義内容について講述するが、ビデオ・スライド等を用い、理解を深める。				
教科書	(資料配布)				
参考書	「建築ガイダンス」(市ヶ谷出版社)				
関連科目	専門科目(建築計画、建築法規、建築構造、建築施工、建築設計製図)				
成績評価 方法	受講態度、確認レポート作成により総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築分野について①				
第2週	建築分野について②				
第3週	建築業界の仕事内容①				
第4週	建築業界の仕事内容②				
第5週	建築業界の仕事内容③				
第6週	建築業界の仕事内容④				
第7週	建築分野の資格について①(建築士)				
第8週	建築分野の資格について②(建築士)				
第9週	建築分野の資格について③(施工管理技士)				
第10週	建築分野の仕事について(業界人講話)①				
第11週	建築分野の仕事について(業界人講話)②				
第12週	建築分野の仕事について(業界人講話)③				
第13週	建築分野の仕事について(業界人講話)④				
第14週	建築分野の仕事について(業界人講話)⑤				
第15週	まとめ(レポート作成)				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
設計演習Ⅰ	昼間	2年前期	必修	2	松澤徹・大西敏恵
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	住宅等の小規模の設計演習を行うことにより、設計の進め方とプレゼンテーションの基礎に				
	関する知識と技術を習得する。				
講義・演習 の内容	実際の敷地を設定して、現地調査、コンセプトワーク、ゾーニング、プランニング等の設計				
	演習を行う。また、設計作業後に指定の用紙に発表用の作品を制作し、発表会でプレゼンテ-				
	ーションを行う。				
教科書	定番 建築製図入門（彰国社）				
参考書					
関連科目	設計演習Ⅱ				
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容、プレゼンテーションを総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築デザインを考える。実例と解説／敷地説明と各自リサーチ				
第2週	現地調査				
第3週	コンセプトワーク、ゾーニング				
第4週	コンセプトワーク、ゾーニング				
第5週	エスキス				
第6週	エスキス				
第7週	エスキスチェック				
第8週	エスキスチェック				
第9週	エスキスチェック				
第10週	エスキスチェック				
第11週	図面制作				
第12週	図面制作				
第13週	作品制作				
第14週	作品制作				
第15週	作品制作				
第16週	作品発表会・提出				

建築科昼間 シラバス

授業科目名+A2:J32	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
設計演習Ⅱ	昼間	2 年 後 期	必修	4	平野・前田・田中茉・伊藤
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士、二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	設計課題演習を通じて、設計作業の進め方を身につけるとともに、就職先での様々なプロジェクトの進め方に活かせるようなスキルを身につけることを目的とする。				
講義・演習 の内容	2級建築士設計製図課題を参考とした設計と製図を行う。				
	実際の敷地をグループごとに調査し、個人で設計作業を進める。				
教科書					
参考書					
関連科目	資格講座（CAD）、建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ、設計演習Ⅰ				
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	ガイダンス、課題説明、敷地調査				
第2週	敷地調査まとめ作業 提出・発表				
第3週	事例収集、まとめ作業				
第4週	【個人課題】・基本計画(コンセプト・検討・完成)・図面のエスキス作成				
第5週	//				
第6週	基本計画（完成）				
第7週	//				
第8週	・図面作成(CAD) 配置図・平面図・立面図・断面図				
第9週	//				
第10週	//				
第11週	//				
第12週	図面完成・提出				
第13週	//				
第14週	パースまたは模型製作				
第15週	図面修正・課題最終提出				
第16週	最終発表				

建築科 屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅰ	昼間	1 年 前 期	必修	8	國武 聖
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築物は図面を媒体として表現される。そのため建築分野では、図面を理解する能力と、建造物を図面で表現する能力とが必要とされる。この修練には実際に建築図面を作成しその中でそれらの能力を培っていかねばならない。特に、ほとんどが未経験者である入学したての学生には、用具の説明・線を描く技術などから始め、各種建築物の基礎知識と図面の描き方などを演習を通して学んでいく。				
講義・演習 の内容	建築製図の基礎知識・技術を身に付けるために、テキストや資料を基として、線の引き方、製図文字、製図記号の書き方を練習する。図面としては木造戸建て住宅のトレースを通し、一通りの木造建築物の設計ができるように解説、演習を行う。				
教科書	定番 建築製図入門 大脇賢次 著				
参考書	コンパクト建築設計資料集成（丸善）ほか				
関連科目	建築設計製図Ⅱ・Ⅲ				
成績評価 方法	提出課題の評価と共に、受講状況、提出期限を重視する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	1. 用具確認、用具説明、取扱い				
第2週	2. 建築製図の基礎知識全般 線の説明、演習				
第3週	3. 文字、数字の説明、演習				
第4週	4. 製図記号の説明1、演習				
第5週	5. 製図記号の説明2、演習				
第6週	6. 木造住宅図面の解説と練習				
第7週	7. 平面図の解説1、演習				
第8週	8. 平面図の解説2、演習				
第9週	9. 断面図の解説1、演習				
第10週	10. 断面図の解説2、演習				
第11週	11. 立面図の解説1、演習				
第12週	12. 立面図の解説2、演習				
第13週	13. 矩計図の解説1、演習				
第14週	14. 矩計図の解説2、演習				
第15週	15. 伏図の解説、演習				
第16週	16. 軸組図の解説、演習				

建築科 屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅱ	昼間	1 年 後 期	必修	8	國武 聖
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築設計製図Ⅰを基礎に、RC造を中心にした各種建築物の製図表現を学び、製図方法を習得することを目的とする。				
	建築図面としては、共同住宅、小事務所ビルのトレースを主とし自らも設計ができるように指導する。				
講義・演習 の内容	各種建築物の製図表現のポイントや描き方を講義形式で説明した上で、その後演習課題として、RC造共同住宅、小事務所ビルの図面トレースを行う。また設計課題としてトレース課題と同規模の共同住宅、小事務所ビルの図面を作成する。				
教科書	定番 建築製図入門 大脇賢次 著				
参考書	コンパクト建築設計資料集成（丸善）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅲ				
成績評価 方法	提出課題の評価とともに、受講状況、提出期限を重視して行う。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	1. 鉄筋コンクリート設計・製図の考え方・説明				
第2週	2. 小事務所ビルの図面トレース 解説（プランニング、構造、デザイン、インテリア）				
第3週	小事務所ビルの平面図・配置図 解説・演習				
第4週	小事務所ビルの断面図 解説・演習				
第5週	小事務所ビルの立面図 解説・演習				
第6週	小事務所ビルの断面詳細図 解説・演習				
第7週	3. 小事務所ビルの設計課題 解説・演習1				
第8週	小事務所ビルの設計課題 演習2				
第9週	小事務所ビルの設計課題 演習3				
第10週	4. 共同住宅の平面図・配置図トレース 解説・演習				
第11週	共同住宅の断面図 解説・演習				
第12週	共同住宅の立面図 解説・演習				
第13週	共同住宅の断面詳細 解説・演習				
第14週	5. 共同住宅の設計課題 解説・演習1				
第15週	共同住宅の設計課題 演習2				
第16週	共同住宅の設計課題 演習3				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅲ	昼間	2 年 前 期	必修	4	島田 勤
授業の方法	演習	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	二級建築士設計製図に合格することを授業の目的とし、一般図（平面図、立面図、断面樹）の製図力の向上（スピード、正確性等）を図るほか、矩計図（詳細図）、伏図の書き方の演習を通して習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	二級建築士設計製図試験の過去問題やそれに関連する課題の解説・演習を行う。				
教科書	2025年度版2級建築士試験 設計製図テキスト（総合資格学院）				
参考書	定番 建築製図入門（彰国社） コンパクト建築設計資料集成（丸善）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	課題の提出状況、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	平面図の作成①				
第2週	平面図の作成②				
第3週	配置図、平面図の作成①				
第4週	配置図、平面図の作成②				
第5週	立面図、断面図の作成				
第6週	伏図の作成①				
第7週	伏図の作成②				
第8週	伏図の作成③				
第9週	伏図の作成④				
第10週	断面詳細図の作成①				
第11週	断面詳細図の作成②				
第12週	断面詳細図の作成③				
第13週	断面詳細図の作成④				
第14週	矩計図の作成①				
第15週	矩計図の作成②				
第16週	期末試験：木造2階建て専用住宅過去問題の製図				

建築科屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築CAD演習 I	昼間	1 年 前 期	必修	4	伊藤 悦子
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	教科書課題の図形を作図しながら、CAD製図に必要な図学的知識とコンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに建築図面への理解を深めることを目標とする。				
講義・演習 の内容	Jw_cadの用語・操作方法を説明し、教科書のドリルを用いて作図演習を行う。さらに、				
	教科書の部分的な建築図面のドリルを作図演習することで、CAD操作と建築図面への理解を深める。				
	製図教科書の木造平屋建て住宅のトレースを行うことにより、CAD操作及び図面表現を習得させる。				
教科書	これで完璧!! Jw_cad基本作図ドリル（エクснаレッジ）				
	定番 建築製図入門				
参考書					
関連科目	建築CAD演習 II				
成績評価 方法	出席率、授業への取り組み態度、				
	提出課題内容（線色、線種が正しく使えているか、レイヤーが分かれているか）を総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	Jwcadとは、画面構成、マウス操作（拡大・縮小）、線属性、レイヤ、基本ドリル1～5				
第2週	マウス操作、直線、伸縮、包絡の復習 基本ドリル6～13				
第3週	基本ドリル平面図01～06 （通り芯～室名、寸法、記号まで）				
第4週	基本ドリル平面図07、立面図01、02 （階段、立面図：窓、屋根）				
第5週	木造平屋建て住宅 平面図				
第6週	木造平屋建て住宅 平面図				
第7週	木造平屋建て住宅 平面図				
第8週	RC事務所ビル 平面図				
第9週	RC事務所ビル 平面図				
第10週	RC事務所ビル 立面図、断面図				
※1週3回	期末試験はなし。各ドリル、図面を授業終了時にメール提出。				
合計30回					

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築CAD演習Ⅱ	昼間	1 年 後 期	必修	4	田中 茉吏
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	教科書課題の平面図・立面図・断面図を作図しながら、CAD製図に必要な知識と使用CAD				
	ソフトウェアの基本的な操作を習得することを目標とする。				
講義・演習 の内容	用語・操作方法を説明しながら、教科書の課題を実際にCADで作図していく。				
	使用ソフトウェアはAutoCAD (Autodesk社)				
教科書	AutoCADで学ぶ建築製図の基本 (エクスナレッジ)				
参考書					
関連科目	建築CAD演習Ⅰ、資格講座 (CAD)、設計演習Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	第1章：建築製図とは、第2章：AutoCADの基本				
第2週	第3章：製図の準備 (テンプレート作成練習)				
第3週	第4章：平面図の作成				
第4週	//				
第5週	//				
第6週	//				
第7週	演習課題：平面図 (検定過去問)				
第8週	//				
第9週	//				
第10週	//				
第11週	第5章：立面図の作成				
第12週	//				
第13週	演習課題：立面図 (検定過去問)				
第14週	//				
第15週	第6章：断面図の作成				
第16週	補講				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築CAD演習Ⅲ	昼間	2 年 前 期	必修	4	大西 敏恵
授業の方法	演習	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	課題のモデリング操作をしながら、BIMソフトウェアの理解に必要な知識と使用BIMソフトウェアの基本的な操作を習得することを目標とする。				
講義・演習 の内容	用語・操作方法を説明しながら、課題の建物を実際にBIMでモデリングしていく。				
	使用ソフトウェアはArchicad（GRAPHISOFT社）				
教科書	Archicad Magic - Archicad 初心者のための入門書（GRAPHISOFT社）				
参考書					
関連科目	建築CAD演習Ⅰ、資格講座（CAD）、設計演習Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	BIMとは				
第2週	課題1) モデリング1：準備、敷地、柱、梁、壁				
第3週	モデリング2：ドア、窓、				
第4週	モデリング3：床、階段、家具など				
第5週	レイアウト、印刷				
第6週	外部図面の取込み、材質変更、パース作成				
第7週	プレゼンテーション作成				
第8週	課題2) 設計				
第9週	モデリング1				
第10週	モデリング2				
第11週	モデリング3				
第12週	モデリング4				
第13週	モデリング5				
第14週	レイアウト、パース作成				
第15週	プレゼンテーション作成、印刷				
第16週	補講				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築デザイン演習	昼間	1 年 前 期	必修	4	田中 茉吏
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築の設計業務やプレゼンテーションにおいて必要となる技術を基礎から学ぶ。				
	さまざまな図法を学び、立体表現の方法を身につける。				
講義・演習 の内容	授業プリントに沿って課題を行い、毎回課題の提出を行う。				
	中間テストにて技術の定着を確認する。				
教科書	建築設計演習1 基礎編：図法から空間へ（峰岸隆・高砂正弘・本田昌昭・寺地洋之）				
参考書					
関連科目					
成績評価 方法	課題（70%）、中間テスト（30%）				
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	立体表現の基礎①図面の種類				
第2週	立体表現の基礎②三面図・立面図				
第3週	立体表現の基礎③アクソメ図				
第4週	建築パース① 図面の種類 / 建築パース②一点透視図法				
第5週	建築パース②一点透視図法				
第6週	建築パース③二点透視図法				
第7週	建築パース③二点透視図法				
第8週	中間テスト（立体表現・パース）				
第9週	建築模型① 作成方法・基礎演習				
第10週	建築模型② 応用演習				
第11週	建築模型③ 応用演習				
第12週	プレゼンテーション課題 コンセプト設定				
第13週	プレゼンテーション課題 プラン作成				
第14週	プレゼンテーション課題 プレゼンボード・模型制作				
第15週	プレゼンテーション課題 個別発表				
第16週	本試験なし（課題未提出者、未完成者は補講）				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座 (CAD)	昼間	1 年 前 期	必修	2	大西 敏恵
授業の方法	演習	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	CAD製図に必要な知識とスキルを習得させ、2級CAD検定試験への合格を目標とする。				
	使用ソフトウェアはAutoCADとし、検定への合格を目標とする中でCAD操作スキルを				
	高めることを目的とする。				
講義・演習 の内容	2級建築CAD検定受験の過去の出題内容をCADで作図しながら、ポイントなどを解説する。				
教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック (エクスナレッジ)				
	建築CAD検定試験問題集 (全国建築CAD連盟)				
参考書	AutoCADで学ぶ建築製図の基本 (エクスナレッジ)				
関連科目	建築CAD演習Ⅱ				
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	2級建築CAD検定試験の概要説明/テンプレートファイル作成				
第2週	過去問題①-1				
第3週	過去問題①-2				
第4週	過去問題①-3				
第5週	過去問題①-4				
第6週	過去問題②-1				
第7週	過去問題②-2				
第8週	過去問題②-3				
第9週	過去問題②-4				
第10週	過去問題③-1				
第11週	過去問題③-2				
第12週	過去問題④-1				
第13週	過去問題④-2				
第14週	過去問題⑤-1				
第15週	過去問題⑤-2				
第16週	補講				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士設計製図）	昼間	2 年 後 期	必修	8	伊藤 悦子
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	二級建築士設計製図に合格することを授業の目的とし、作図能力の向上および設計演習を通して、設計知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	二級建築士設計製図試験の過去問題やそれに関連する課題の解説・演習を行う。 RC：トレース1 課題+2 課題 木造：トレース1 課題+5 課題 合計9 課題				
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト【令和5年度版】（総合資格学院）				
参考書	定番 建築製図入門（彰国社）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
成績評価 方法	課題の提出状況、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	2級建築士試験の概要、トレース課題1（RC造3階建（カフェ併設二世帯住宅））作図（平面図）				
第2週	トレース課題1（RC造3階建（カフェ併設二世帯住宅））作図（断面図）、読み取り・エスキス				
第3週	課題1（RC造3階建（カフェ併設二世帯住宅））エスキス、作図（平面図、断面図）				
第4週	課題2（RC造3階建（3階に住宅のある貸店舗））エスキス、作図（平面図、断面図）				
第5週	課題1・2 計画の要点、面積表、作図（立面図・部分詳細図）				
第6週	トレース課題2（木造2階建（三世帯住宅））読み取り・エスキス、作図（平面図）				
第7週	トレース課題2（木造2階建（三世帯住宅））作図（断面図、床伏図、矩計図）				
第8週	課題3（木造2階建（介護住宅））読み取り・エスキス、エスキスチェック、作図				
第9週	課題3 作図つづき、チェック、修正、（課題3-2）				
第10週	課題4（木造2階建（介護住宅））読み取り・エスキス、エスキスチェック、作図				
第11週	課題4 作図つづき、チェック、修正、（課題4-2）				
第12週	課題5（木造2階建（設計事務所併設住宅））読み取り・エスキス、エスキスチェック、作図				
第13週	課題5 作図つづき、チェック、修正、（課題5-2）				
第14週	課題6（木造2階建（保育所））6時間通し				
第15週	課題7（木造2階建（R4本試験 木造2階建保育所））6時間通し				
	毎回（課題文・エスキス・図面）を提出、試験はなし。				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	区分	単位	担当教員名
建築計画Ⅰ	昼間	1 年 前 期	必修	2	徳田剛一
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築実施設計、基本設計、計画構想、都市計画、まちづくり		
授業目的 及び 到達目標	「独立住宅」について学習する。				
	住生活空間の史的特性、近代化について整理することで現代住宅の位置づけを把握する。				
	また、ゾーニング手法による平面構成および各室・スペースの計画的要点について学び、				
	住宅平面計画の基本的構成が作成できるようになることを目標とする。				
講義・演習 の内容	テキストとともに、配布プリント、スライド等を用いて学習する。				
	また、計画の分析、2級建築士の過去問題、将来の自宅を自ら提案する実習を行う。				
教科書	建築計画・初学者の建築講座（市ヶ谷出版）				
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ、建築計画Ⅱ・Ⅲ				
成績評価 方法	定期テストの結果に平常点（出席日数・提出物）を勘案				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	ガイダンス・建築計画の構成				
第2週	建築計画の方法				
第3週	独立住宅：日本の伝統的な住まい				
第4週	独立住宅：日本の住宅の近代化				
第5週	独立住宅：日本とアメリカの住宅との比較検討				
第6週	独立住宅：公私のゾーニングとモダンリビング				
第7週	独立住宅：住宅の配置計画、動線計画				
第8週	独立住宅：公室の計画（食事室）				
第9週	独立住宅：公室の計画（居間・接客室）				
第10週	独立住宅：私室の計画（個室と寝室）				
第11週	独立住宅：動線の空間の計画				
第12週	独立住宅：水廻り空間の計画、住宅計画の事例				
第13週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる				
第14週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる				
第15週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	区分	単位	担当教員名
建築計画Ⅱ	昼間	1 年 後 期	必修	2	徳田剛一
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築実施設計、基本設計、計画構想、都市計画、まちづくり		
授業目的 及び 到達目標	<p>基準階タイプの施設の計画について学習する。</p> <p>まず、「集合住宅」では、水準・指標値を基にした住戸ユニットの計画について学習し、住戸、共用部、配置計画についての基礎と近年動向を整理する。</p> <p>「事務所建築」については、経済性を踏まえた基準階計画を中心に、モジュールプラン、省エネ、高層建築の都市性などについて学習する。</p>				
講義・演習 の内容	<p>テキストとともに、配布プリント、スライド等を用いて学習する。</p> <p>また、2級建築士の過去問題、住戸ユニットプラン・オフィス基準階計画の作成などの実習を行う。</p>				
教科書	建築計画・初学者の建築講座（市ヶ谷出版）				
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ、建築計画Ⅰ・Ⅲ				
成績評価 方法	定期テストの結果に平常点（出席日数・提出物）を勘案				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	集合住宅：共同住宅計画の概要、略史、住棟形式・アクセス形式(1)				
第2週	集合住宅：住棟形式・アクセス形式(2)				
第3週	集合住宅：住宅水準とnLDK				
第4週	集合住宅：居住者の意向を反映する住戸計画				
第5週	集合住宅：ユニットプランの計画・実習				
第6週	集合住宅：共用空間の計画・住宅計画の動向				
第7週	集合住宅：配置計画				
第8週	集合住宅：住宅地計画・密度				
第9週	事務所：事務所ビルの機能構成、空間構成、面積構成				
第10週	事務所：コアの概念、コアの種類と特徴				
第11週	事務所：コア（共用空間）の計画				
第12週	事務所：オフィス・デスクレイアウト、オフィスモジュール				
第13週	事務所：執務空間の計画、OA化への対応				
第14週	事務所：外装計画、事務所計画と環境への配慮				
第15週	事務所：基準階の計画演習				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	区分	単位	担当教員名
建築計画Ⅲ	昼間	2 年 前 期	必修	2	徳田剛一
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築実施設計、基本設計、計画構想、都市計画、まちづくり		
授業目的 及び 到達目標	<p>建築計画Ⅲに引き続き「教育施設」・「コミュニティ施設」・「展示施設」・「図書館」・「老人福祉施設」について学習する。</p> <p>不特定多数が利用する施設の運営方式、ゾーニング、ブロックプラン等の用途構成法や空間部門別計画の基礎的知識を修得することを目標とする。</p>				
講義・演習 の内容	<p>テキストとともに、配布プリント、スライド等を用いて学習する。</p> <p>また、計画の分析、計画の作成、2級建築士の過去問題などの実習を行う。</p>				
教科書	建築計画・初学者の建築講座（市ヶ谷出版）				
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）				
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ、建築計画Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	定期テストの結果に平常点（出席日数・提出物）を勘案				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	図書館：サービスの種類と出納方式				
第2週	図書館：全体計画				
第3週	図書館：諸室計画				
第4週	図書館：図書館計画の事例と近年動向				
第5週	図書館：寸法計画、環境計画・開架書架部分柱割り計画演習				
第6週	展示施設：機能構成と全体計画				
第7週	展示施設：公開部分の計画				
第8週	展示施設：非公開部分の計画				
第9週	集会施設：集会施設の空間構成、大空間と小空間の計画、住民参加の計画				
第10週	教育施設：教育システムの変革と運営方式				
第11週	教育施設：配置計画・ブロックプランと教室等の配置関係				
第12週	教育施設：オープンスクール・ユニットプラン・教室の計画				
第13週	老人福祉施設：老人福祉施設・サービスの種類				
第14週	老人福祉施設：機能用途空間構成・ユニットケアとユニットの計画				
第15週	老人福祉施設：各室の計画				
第16週	定期試験				

建築科屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築環境工学Ⅰ	昼	1 年 前 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	建築環境工学は、日照・光・色彩・空気・温熱・湿気・音などの環境物理、地域の気候風土に適した				
	室内環境形成のための建築計画、さらに環境エネルギー問題を背景とした設備計画の分野からなる。				
	建築環境工学ⅠおよびⅡでは、建築の実務に必要な環境物理の基礎知識を学び、人間の心理・				
	生理を考慮した室内環境の設計・運用・評価・改善方法を身につけることを目的とする。				
本授業では、日照・日射環境、光環境、色彩環境、空気環境を対象にする。					
講義・演習 の内容	シラバスに従って講義する。適宜、演習を行う。受講者は、教科書の関連箇所の予習と				
	配布資料および参考書による復習を行うとともに、授業中は関連内容について積極的に質問し、				
	討論するものとする。質問は授業終了後も受け付ける。				
教科書	倉淵隆著：初学者の建築講座「建築環境工学」（第二版）、市ヶ谷出版社				
参考書	〈建築のテキスト〉編集委員会編：初めての建築環境、学芸出版社				
関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築数理、建築設備Ⅰ・Ⅱ、建築材料Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	授業の出席状況や授業中の質疑および討論などを考慮しながら、定期試験の成績により				
	獲得目標の達成度を評価し、60点以上を合格とする。定期試験の欠席者および不合格者				
	に対しては適宜、追再試を実施する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築環境工学の目的と要素（教科書/序・1）				
第2週	建築環境工学の新しい領域と課題（教科書/序・2）				
第3週	太陽位置（教科書/1・1）				
第4週	日照と日影（教科書/1・2）				
第5週	日射（教科書/1・3）				
第6週	測光量（教科書/2・1）				
第7週	明視環境の確保（教科書/2・2）				
第8週	採光（教科書/2・3）				
第9週	人工照明（教科書/2・4）				
第10週	色彩の表し方（教科書/3・1）				
第11週	色彩計画（教科書/3・2）				
第12週	室内空気環境（教科書/4・1）				
第13週	自然換気の力学（教科書/4・2）				
第14週	機械換気の計画（教科書/4・3）				
第15週	日照・日射環境、光環境、色彩環境、空気環境の復習				
第16週	試験				

建築科屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築環境工学Ⅱ	昼	1 年 後 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	建築環境工学は、日照・光・色彩・空気・温熱・湿気・音などの環境物理、地域の気候風土に適した				
	室内環境形成のための建築計画、さらに環境エネルギー問題を背景とした設備計画の分野からなる。				
	建築環境工学ⅠおよびⅡでは、建築の実務に必要な環境物理の基礎知識を学び、人間の心理・				
	生理を考慮した室内環境の設計・運用・評価・改善方法を身につけることを目的とする。				
本授業では、熱環境、湿気環境、温熱環境、都市・地球環境、音環境を対象にする。					
講義・演習 の内容	シラバスに従って講義する。適宜、演習を行う。受講者は、教科書の関連箇所の予習と				
	配布資料および参考書による復習を行うとともに、授業中は関連内容について積極的に質問し、				
	討論するものとする。質問は授業終了後も受け付ける。				
教科書	倉淵隆著：初学者の建築講座「建築環境工学」（第二版）、市ヶ谷出版社				
参考書	〈建築のテキスト〉編集委員会編：初めての建築環境、学芸出版社				
関連科目	建築環境工学Ⅰ、建築数理、建築設備Ⅰ・Ⅱ、建築材料Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	授業の出席状況や授業中の質疑および討論などを考慮しながら、定期試験の成績により				
	獲得目標の達成度を評価し、60点以上を合格とする。定期試験の欠席者および不合格者				
	に対しては適宜、追再試を実施する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	熱の流れと基礎（教科書/5・1）				
第2週	熱貫流（教科書/5・2）				
第3週	日射熱（教科書/5・2）				
第4週	建物全体の熱特性（教科書/5・3）				
第5週	湿り空気と露点温度（教科書/6・1）				
第6週	結露（教科書/6・2）				
第7週	人体周りの熱収支（教科書/7・1）				
第8週	温熱感覚指標（教科書/7・2）				
第9週	外界気象（教科書/8・1）				
第10週	都市環境（教科書/8・2）				
第11週	地球環境（教科書/8・2）				
第12週	音の性質（教科書/9・1）				
第13週	騒音評価と遮音効果（教科書/9・2）				
第14週	音響計画（教科書/9・3）				
第15週	熱環境、湿気環境、温熱環境、都市・地球環境、音環境の復習				
第16週	試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設備Ⅰ	昼間	1 年 後 期	必修	2	田中茉吏
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築設備の基本設計として、空気調和設備消火設備・換気・排煙設備等の				
	実施設計要領について学ぶ。				
	意匠設計・設備設計・構造設計との関係性を学ぶ。				
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。				
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集した				
	ものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。				
教科書	初学者の建築講座 建築設備、第3版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)				
参考書	空気調和・衛生設備の知識 空気調和・衛生工学会				
	建築士試験問題と解説(日建学院)				
関連科目	建築設備Ⅰ、建築環境工学				
	建築士特別講義Ⅰ、Ⅱ				
	建築法規Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)				
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。				
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築設備概論(1)、オリエンテーション(授業の進め方、他)				
第2週	建築設備概論(2)、設備計画、省エネルギー指針、他				
第3週	空気調和設備とは				
第4週	空気調和と室内環境				
第5週	空気の状態を知る・空気線図(1)				
第6週	空気の状態を知る・空気線図(2)				
第7週	空調負荷の考え方(1)				
第8週	空調負荷の考え方(2)				
第9週	空気調和方式の種類・特徴と設備計画(1)				
第10週	空気調和方式の種類・特徴と設備計画(2)				
第11週	空気調和方式の種類・特徴と設備計画(3)				
第12週	熱源・搬送設備と機器部材				
第13週	換気・排煙設備(1)				
第14週	換気・排煙設備(2)				
第15週	全体のまとめ(重点事項の復習)				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設備Ⅱ	昼間	2 年 前 期	必修	2	田中 茉吏
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築設備の基本設計として、給排水衛生設備・消火設備・ガス設備・電気設備等の				
	実施設計要領について学ぶ。				
	意匠設計・設備設計・構造設計との関係性を学ぶ。				
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。				
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集した				
	ものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。				
教科書	初学者の建築講座 建築設備、第3版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)				
参考書	空気調和・衛生設備の知識 空気調和・衛生工学会				
	建築士試験問題と解説(日建学院)				
関連科目	建築設備Ⅰ、建築環境工学				
	建築士特別講義Ⅰ、Ⅱ				
	建築法規Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)				
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。				
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築設備概論(1)、オリエンテーション(給排水・衛生設備の概要、授業の進め方、他)				
第2週	給水設備(1)				
第3週	給水設備(2)				
第4週	給水設備(3)、給湯設備(1)				
第5週	ガス設備(1)				
第6週	排水・通気設備(1)				
第7週	排水・通気設備(2)				
第8週	排水・通気設備(3)				
第9週	排水処理設備(1)				
第10週	衛生器具設備(1)				
第11週	消火設備(1)				
第12週	消火設備(2)				
第13週	電気設備(1)				
第14週	電気設備(2)				
第15週	全体のまとめ(重点事項の復習)				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築史	昼間	1 年 前 期	必修	2	堀 賀貴
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	建築史は、単なる歴史ではなく、人間が創り出してきた空間ひとつひとつの積み重ねそのものである。本講義では、さまざまな建築物や建築を内包する空間の特徴・背景について解説を行いながら建築空間の構成やその素晴らしさに触れることを目的としている。				
講義・演習 の内容	日本建築と西洋建築をそれぞれ時代ごとに建築の様式や考え方、建築に携わる人々を中心に学ぶ。授業中、プリント・資料・映像などを使用することで、「見て学ぶ」ことを大切にし、時代による建築の変化や意味を知ってもらう。				
教科書	カラー版 建築の歴史（学芸出版社）				
参考書	日本建築学会編「日本建築史図集」「西洋建築史図集」など				
関連科目	建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
成績評価 方法	期末試験の得点，出席などを総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	西洋建築史：古代オリエント・古代エジプト建築				
第2週	西洋建築史：ギリシャ・ローマ建築				
第3週	西洋建築史：キリスト教空間の出現・ビザンツ建築，ロマネスク・ゴシック建築				
第4週	西洋建築史：ルネッサンス・バロック建築，新古典主義・歴史主義建築				
第5週	日本建築史：縄文・弥生・古墳時代の住居・集落，飛鳥・白鳳・天平・平安時代の寺院建築				
第6週	日本建築史：古代・奈良・平安時代の社寺建築				
第7週	日本建築史：古代の宮殿と都城，寝殿造・大仏様・禅宗様・新和様・折衷様，中世の神社				
第8週	日本建築史：北山文化・東山文化、中世の民家・書院造・茶室・数奇				
第9週	日本建築史：近世の寺院・神社・民家，学校・劇場				
第10週	日本建築史：幕末から明治時代の西洋化建築				
第11週	近代建築史：産業革命以降の建築				
第12週	近代建築史：巨匠の建築				
第13週	日本の表現主義・帝冠様式・戦後の潮流日本建築				
第14週	現代の建築 ポストモダン建築				
第15週	日本の建築家・その他				
第16週	定期試験				

建築科屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士計画）	昼	1 年 後 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	二級建築士資格取得に必要な知識を習得させ、二級建築士への合格を目標とする。				
講義・演習 の内容	二級建築士試験の学科Ⅰ（計画）の過去の出題内容を分野別にまとめながら、問題解答のポイントなどを解説する。				
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2024（エクスナレッジ編）				
参考書	2級建築士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士法規）、資格講座（建築士構造）、資格講座（建築士施工） 建築史、建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築設備Ⅰ、建築設備Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	計画各論：住宅・集合住宅：住戸計画、地域計画				
第2週	計画各論：公共建築				
第3週	計画各論：商業建築・事務所建築				
第4週	計画各論：各部計画、住宅生産				
第5週	建築史：日本建築史、西洋・東洋建築史				
第6週	建築環境工学：換気				
第7週	建築環境工学：温冷感・熱・結露				
第8週	建築環境工学：日照・日射・採光				
第9週	建築環境工学：光・色彩、照明				
第10週	建築環境工学：音響・吸音・遮音・残響、環境工学融合				
第11週	建築設備：設備用語				
第12週	建築設備：空調設備、冷暖房設備				
第13週	建築設備：給水設備、排水設備				
第14週	建築設備：電気設備、照明設備				
第15週	建築設備：防災・消防設備、省エネルギー設備				
第16週	期末試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造力学Ⅰ	昼間	1 年 後 期	必修	2	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	<p>建物には地震・風など様々な力が加わる。その様な力に対して支える方法の基礎を習得する ために、力の表現方法・骨組みのモデル化・釣合による解法を学習することで、構造に関する基本的な感覚を身に付けることを目的とする。</p>				
講義・演習 の内容	<p>各項目ごとに講義形式で授業を行う。特に重要な点については、まとめのプリントや演習 問題を出题し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。</p>				
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学（市ヶ谷出版社）				
参考書	初めて学ぶ 建築構造力学（市ヶ谷出版社）				
関連科目	建築構造力学Ⅱ、建築構造設計				
成績評価 方法	定期試験によって成績を評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築における構造力学の役割、構造物に作用する力、構造物のモデル化				
第2週	力の表現、力の符号、力のモーメント				
第3週	構造物、支点のモデル化、荷重の種類				
第4週	力の合成：分布荷重・2力以上の力の合成・平行な力の合成				
第5週	力の分解				
第6週	力のつり合い				
第7週	力のつり合い：回転をともなう力のつり合い				
第8週	反力の計算：単純梁（集中荷重が作用する場合）				
第9週	反力の計算：単純梁（分布荷重が作用する場合）				
第10週	反力の計算：片持ち梁				
第11週	反力の計算：モーメント荷重が作用する場合				
第12週	反力の計算：静定ラーメン				
第13週	応力（断面力）の算定法				
第14週	梁の応力図				
第15週	静定ラーメンの応力図				
第16週	期末試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造力学Ⅱ	昼間	2 年 前 期	必修	4	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	<p>構造力学Ⅱにおいては、部材断面の性質から断面内に作用する力および構造物の変形と崩壊について学習する。また、部材に作用する力から許容応力度、崩壊する状態までの考え方および材料の性質を含めた、構造設計の実際の考え方の基本となる解法を学習することで、実際の構造物に作用すると想定される外力に対して抵抗する骨組みの解法を身に付けることを目標とする。</p>				
講義・演習 の内容	<p>演習は必要に応じて講義の時間内に行う。また、教科書の範囲を超える内容については、適宜プリントを配布し授業を行う。</p>				
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学（市ヶ谷出版社）				
参考書	初めて学ぶ 建築構造力学（市ヶ谷出版社）				
関連科目	建築構造力学Ⅰ、建築構造設計				
成績評価 方法	定期試験によって成績を評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	3ヒンジラーメンの応力				
第2週	静定トラスの特徴、静定トラスの解法（節点法）				
第3週	静定トラスの解法（切断法）				
第4週	断面の図心、断面2次モーメント、断面係数				
第5週	軸方向応力度、せん断応力度、曲げ応力度				
第6週	組合せ応力度、弾性座屈荷重				
第7週	応力法と変位法の基本的な考え方と構造設計法				
第8週	静定梁の変形（たわみ、たわみ角）				
第9週	曲げ変形による静定梁のたわみ、モールの定理における解法				
第10週	安定・不安定、静定・不静定の判別法				
第11週	不静定梁の応力と変形：仮想仕事法（単位仮想荷重法）による解法				
第12週	不静定梁の応力と変形：たわみ角法による解法				
第13週	固定法による骨組みの解法				
第14週	静定構造の崩壊の考え方				
第15週	不静定構造の崩壊：全塑性モーメントの算定、崩壊機構				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造Ⅰ	昼間	1 年 前 期	必修	2	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	建築構造の役割、建築物の構成要素、建築物に作用する外力、構造設計法の概要を理解する。				
	木造建築物（主に住宅）の構造について、その構成を理解し、構造部材各部位の断面寸法、				
	継手・仕口を理解すると共に、水平荷重に対する安全性の確認方法を習得する。				
講義・演習 の内容	下記授業計画に沿って講義を行う。講義はプロジェクトを用いた図示と板書を行いながら進める。				
教科書	初学者の建築講座 建築構造（新版）（市ヶ谷出版社）				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
関連科目	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ				
	建築構造Ⅱ、建築構造Ⅲ				
成績評価 方法	期末試験及び出欠状況を加味し、客観的かつ総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築物の構成要素、建築物の安定と不安定				
第2週	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム				
第3週	構造設計法の概要				
第4週	木質構造の概要				
第5週	木材と木質系材料				
第6週	木材の接合				
第7週	軸組				
第8週	壁倍率と壁量				
第9週	小屋組				
第10週	床組				
第11週	枠組壁工法				
第12週	構造用大断面集成材を用いた構造				
第13週	各部構造（1）：勾配屋根、床、階段				
第14週	各部構造（2）：壁、天井、開口部				
第15週	問題演習				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造Ⅱ	昼間	1 年 後 期	必修	2	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	鉄筋およびコンクリートの各材料の力学的性質を学習するとともに、鉄筋とコンクリートで構成された鉄筋コンクリート構造部材の抵抗機構・破壊機構を学習することによって、鉄筋コンクリート構造の建築空間を安全に設計するための基礎知識を得る。				
講義・演習 の内容	下記授業計画に沿って講義を行う。講義はプロジェクトを用いた図示と板書を行いながら進める。				
教科書	初学者の建築講座 建築構造（新版）（市ヶ谷出版社）				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
関連科目	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ 建築構造Ⅰ、建築構造Ⅲ				
成績評価 方法	期末試験及び出欠状況を加味し、客観的かつ総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	鉄筋コンクリート構造とは				
第2週	鉄筋コンクリート構造の特徴				
第3週	RC構造の材料：コンクリート				
第4週	RC構造の材料：鉄筋				
第5週	梁・柱部材				
第6週	RC構造におけるひび割れ				
第7週	スラブ				
第8週	耐震壁				
第9週	断面算定（1）				
第10週	断面算定（2）				
第11週	その他のコンクリート系構造（1）				
第12週	その他のコンクリート系構造（2）				
第13週	各部構造（1）				
第14週	各部構造（2）				
第15週	問題演習				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造Ⅲ	昼間	2 年 前 期	必修	2	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	この講義では鉄骨構造について、主に以下の4点に関する理解を深めることを目的とする。				
	①鉄骨構造の特徴、②鉄骨構造建物の構造安全性を確保するための基本的な考え方				
	③鉄骨構造部材の設計法、④各種接合部の設計と施工				
	また、基礎構造について、主に以下の3点に関する理解を深めることを目的とする。				
講義・演習 の内容	①土や地盤の性質、②基礎の種類と設計上の留意点、③地盤改良、土圧、擁壁				
	下記授業計画に沿って講義を行う。講義はプロジェクトを用いた図示と板書を行いながら進める。				
教科書	初学者の建築講座 建築構造（新版）（市ヶ谷出版社）				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
関連科目	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ				
	建築構造Ⅰ、建築構造Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験及び出欠状況を加味し、客観的かつ総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	鉄骨構造の概要				
第2週	鋼材の種類と性質				
第3週	各部材の設計				
第4週	接合（1）				
第5週	接合（2）				
第6週	柱脚、トラス構造				
第7週	そのほかの鉄骨構造、耐火被覆および錆止め				
第8週	各部構造				
第9週	基礎の種類、地層と地盤				
第10週	土の性質、根切り・地業				
第11週	直接基礎				
第12週	杭基礎（1）				
第13週	杭基礎（2）				
第14週	地盤改良、土圧および擁壁				
第15週	問題演習				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必須選択	単位	担当教員名
建築材料Ⅰ	昼間	1 年 後 期	必修	2	城戸 孝史
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築物には様々な材料が用いられており、設計時には材料の選定、施工時には工法の検討、				
	完成後には維持・保全のための知識が必要である。				
	講義および演習課題により、建築で用いられる構造材料（木・鉄・コンクリート）の				
	基本的な物理的・化学的性質、コスト、耐久性、用法等に関する知識を習得する。				
講義・演習 の内容	実務で求められる建築初学者の知識を到達目標とする。				
	各種材料の性質および質感や見た目を理解するために、パワーポイントを用いた講義を行う。				
教科書	適宜、演習課題を実施する事で、内容の理解度を深める。				
	初学者の建築講座 建築材料（市ヶ谷出版）				
参考書	建築材料用教材（日本建築学会）				
関連科目	建築材料Ⅱ				
成績評価 方法	中間試験、定期試験により成績を評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	ガイダンス：各種材料の使い方（実例），用語：諸性質に関する用語				
第2週	木材1：木材の種類，基本的性質，用途				
第3週	木材2：木材の基本的性質				
第4週	木材3：木材の耐久性，維持・保全，木材製品の性質および用途				
第5週	木材4：木材製品の性質および用途				
第6週	金属1：鋼材の製造過程，種類と規格				
第7週	金属2：性質，用途				
第8週	金属3：防食				
第9週	中間試験				
第10週	セメント：セメントの種類，性質				
第11週	コンクリート用骨材：骨材に要求される性能				
第12週	混和材料：混和剤および混和材の種類と性質				
第13週	コンクリート1：コンクリートの用途，製造方法，フレッシュコンクリートの性質，品質管理				
第14週	コンクリート2：硬化コンクリートの強度的性質				
第15週	コンクリート3：コンクリートの耐久性，維持・保全				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必須選択	単位	担当教員名
建築材料Ⅱ	昼間	2 年 前 期	必修	2	城戸 孝史
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築物には様々な材料が用いられており、設計時には材料の選定、施工時には工法の検討、				
	完成後には維持・保全のための知識が必要である。				
	講義および演習課題により、建築で用いられる仕上げ材料（内装材・外装材・その他）の				
	基本的な物理的・化学的性質、コスト、耐久性、用法等に関する知識を習得する。				
講義・演習 の内容	実務で求められる建築初学者の知識を到達目標とする。				
	各種材料の性質および質感や見た目を理解するために、パワーポイントを用いた講義を行う。				
教科書	適宜、演習課題を実施する事で、内容の理解度を深める。				
	初学者の建築講座 建築材料（第二版）				
参考書	建築材料用教材（日本建築学会）				
関連科目	建築材料Ⅰ				
成績評価 方法	出席・小テスト・中間試験・定期試験・授業態度 等により成績を評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築材料 ガイダンス				
第2週	第1章 非鉄金属材料				
第3週	第2章 石				
第4週	第3章 ガラス1				
第5週	第3章 ガラス2				
第6週	第4章 セラミックス				
第7週	第5章 左官材料				
第8週	中間テスト				
第9週	第6章 プラスチック				
第10週	第7章 塗料・仕上塗材、第8章 接着剤				
第11週	第9章 外壁パネル				
第12週	第10章 インテリア材料				
第13週	<機能材料>第1章 防水材料				
第14週	<機能材料>第2章～3章 防・耐火材料、断熱材料				
第15週	<機能材料>第4章～5章 音響材料、免震・制振材料				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造設計	昼	2 年 後 期	必修	4	田中 智典
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	建築における代表的な構造種別の特徴や特性、構造計算の流れを授業時の演習や解説を通して学習し、				
	構造計画に関する資料や構造図面、実際の建物で行った構造計算書を例に挙げながら、理解を深めていく。				
	また、建築士試験に頻出する内容について用語や数値などを理解し、解答できることを目標とする。				
講義・演習 の内容	教科書やプリント、スライドを使い講義を行う。講義の進行に合わせ、適宜演習と小テストを行う。				
	演習に関しては、建築士試験過去問題や教科書、実際の構造図等を用いて行う。				
	※演習に関して、簡単な手計算が必要になる場合があるので、関数電卓を持参すること。				
教科書	初学者の建築講座 建築構造設計(市ヶ谷出版)				
参考書					
関連科目	建築構法, 建築構造力学Ⅰ・Ⅱ, 建築構造Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 建築材料Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験・必要に応じて行う学期中のレポート・小テスト・出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	構造設計について(全体の概要や用語)				
第2週	荷重について1				
第3週	荷重について2				
第4週	構造計算について				
第5週	地盤と基礎構造				
第6週	変形に対する検討、保有水平耐力計算について				
第7週	固定モーメント法, D値法の算定方法				
第8週	鉄筋コンクリート造の構造設計について1				
第9週	鉄筋コンクリート造の構造設計について2				
第10週	鉄骨造の構造設計について1				
第11週	鉄骨造の構造設計について2				
第12週	鉄骨造の構造設計について3				
第13週	木造の構造設計について1				
第14週	木造の構造設計について2				
第15週	学習のまとめ				
第16週	期末テスト				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士構造）	昼間	2 年 後 期	必修	4	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験及び二級建築士学科試験（構造）に合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。				
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2025（エクスナレッジ編）				
参考書	2級建築士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士施工） 建築構造力学Ⅰ・Ⅱ 建築構造Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	単純梁（静定梁）の応力				
第2週	静定トラスの応力				
第3週	静定ラーメンの応力				
第4週	断面の性質				
第5週	応力度と許容応力度				
第6週	座屈・変形				
第7週	中間テスト				
第8週	荷重・外力～地盤基礎構造				
第9週	鉄筋コンクリート構造				
第10週	壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック構造				
第11週	鉄骨構造				
第12週	木構造①				
第13週	木構造②				
第14週	構造設計・耐震設計				
第15週	建築材料				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築施工Ⅰ	昼間	1 年 後 期	必修	2	小川 厚
授業の方法	講義	担当教員実務内容	設計会社にて建築設計実務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築施工の用語及び工法、手順等を学ぶ。				
	鉄骨造と鉄筋コンクリート造の相違点を学ぶ。				
	仕上工事の種類とその特徴を学ぶ。				
	現場の大切さを知る。				
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。				
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集したものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。				
教科書	初学者の建築講座 建築施工、第3版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)				
参考書	施工がわかるイラスト建築生産入門、一般社団法人日本建設業連合会編(彰国社)				
関連科目	建築構法、建築法規Ⅰ・Ⅱ				
	鉄筋コンクリート構造				
	建築材料				
成績評価 方法	小テスト・中間試験(30%)、期末試験(70%)				
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。				
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	第1章 建築生産（設計と施工）				
第2週	第2章 施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ				
第3週	第3章 工事に着手する（施工計画、品質・原価管理）				
第4週	第3章 工事に着手する（工程計画・工程管理）				
第5週	第3章 工事に着手する（安全衛生管理、環境管理、地盤調査）				
第6週	第3章 工事に着手する（材料管理・建設機械）				
第7週	第4章 仮設・準備工事				
第8週	中間試験				
第9週	第5章 土工事、地業・基礎工事				
第10週	第5章 土工事、地業・基礎工事				
第11週	第6章 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事）				
第12週	第6章 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事）				
第13週	第6章 鉄筋コンクリート工事（型枠工事）				
第14週	第6章 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事）				
第15週	第6章 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事）				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築施工Ⅱ	昼間	2 年 前 期	必修	2	小川 厚
授業の方法	講義	担当教員実務内容	設計会社にて建築設計実務。二級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築施工の用語及び工法、手順等を学ぶ。				
	鉄骨造と鉄筋コンクリート造の相違点を学ぶ。				
	仕上工事の種類とその特徴を学ぶ。				
	現場の大切さを知る。				
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。				
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集したものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。				
教科書	初学者の建築講座 建築施工、第3版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)				
参考書	施工がわかるイラスト建築生産入門、一般社団法人日本建設業連合会編(彰国社)				
関連科目	建築構法、建築法規Ⅰ・Ⅱ				
	鉄骨構造				
	建築材料				
成績評価 方法	小テスト・中間試験(30%)、期末試験(70%)				
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。				
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	第7章 鉄骨工事（工場製作）				
第2週	第7章 鉄骨工事（工場製作）				
第3週	第7章 鉄骨工事（工事現場施工）				
第4週	第8章 コンクリートブロック工事、屋根工事				
第5週	第8章 防水工事				
第6週	第9章 仕上工事（左官工事、タイル工事）				
第7週	第9章 仕上工事（石工事、建具・ガラス工事）				
第8週	中間試験				
第9週	第9章 仕上工事（金属工事・内装工事）				
第10週	第9章 仕上工事（塗装工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事）				
第11週	第9章 仕上工事（木工事）				
第12週	第9章 仕上工事（木工事）				
第13週	第10章 設備工事				
第14週	第11章 完成、引渡				
第15週	まとめ				
第16週	定期試験				

建築科 昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構法	昼間	1 年 前 期	必修	2	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	本講義の目的は、建築物がどのようにして構成されるかを具体的に理解することにある。建築の基礎構造を初めとして、各種構造別にその主要事項、後章では仕上げ、造作、建具などについて学習する。建築に対して考える力を養い、建築実務者として、また各種構造を本格的に学習するために必要な基礎知識を学習し、『建築構造』、『建築施工』また、『資格講座』（建築士学科・施工管理技士）への基礎知識の習得することを到達目標とする。				
講義・演習 の内容	下記の講義内容について講述するが、ビデオ・スライド等を用い、理解を深める。併せて、用語・用法に関する資料を課題として作成することで、学習内容の定着を図る。				
教科書	「3D図解による建築構法」（市ヶ谷出版社）				
参考書	初学者シリーズ「建築施工」、「建築構造」（市ヶ谷出版社）				
関連科目	建築構造Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、建築施工Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	受講態度，作成課題，定期試験により総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	概論：建築と構法①建築構法とは～材料と構法（材料と構造形式）				
第2週	概論：建築と構法②性能と構法～生産と構法（荷重と外力）				
第3週	基礎の構法①				
第4週	基礎の構法②				
第5週	基礎の構法③小テスト				
第6週	木造Ⅰ 在来軸組工法①材料				
第7週	木造Ⅰ 在来軸組工法②躯体構法				
第8週	木造Ⅰ 在来軸組工法③躯体構法				
第9週	木造Ⅰ 在来軸組工法④躯体構法～屋根の構法				
第10週	木造Ⅰ 在来軸組工法⑤屋根の構法				
第11週	木造Ⅰ 在来軸組工法⑥外周壁～内装構法				
第12週	木造Ⅰ 在来軸組工法⑦内装構法～木造Ⅱ その他の木造工法				
第13週	鉄骨造の構法①鋼材～躯体構法				
第14週	鉄骨造の構法②屋根の構法～内装構法				
第15週	鉄筋コンクリート造の構法				
第16週	定期試験				

建築科 屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築測量実習	昼間	1 年 後 期	必修	2	金崎大地
授業の方法	実習	担当教員実務内容	測量会社にて測量業務。測量士。		
授業目的 及び 到達目標	建築物を施工する上で、様々な測量の知識が必要となる。特に、距離・角度・水準などの測量は重要な項目である。又、新しいドローンや3D計測、GPS測量などの新しい技術にも触れることで測量の中でも特に建築現場における技術を器械・器具の取り扱い、建築施工の工種別での内容をふまえた講義や実践的な屋外での実地作業を行い建築に必要な測量（墨出し）の理解を深める。				
講義・演習 の内容	各測量の概要・測量方法を講義形式または実演で行い、測量器械の取扱いや据え付け、測量結果の整理や誤差の補正までを実演を兼ねて行う。				
教科書	考え方・進め方 建築墨出し（オーム社） 適宜プリント配布				
参考書					
関連科目	建築施工Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	出席・実習態度、据付試験及びレポートにより総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	①測量について（器械の種類、取り扱い方）：教室 ②水準測量（レベルの据え付け方）：校内				
第2週	①②水準測量（スタッフの読み取り、地盤高の計算演習）：公園				
第3週	①②水準測量（観測手簿を使用した地盤高の計算演習）：公園				
第4週	①②TS実習（TSの1居え付け方）：校内				
第5週	①②TS実習（TSの据え付け方、距離と角度の計測）：校内				
第6週	①②TS実習（距離と角度を用いた位置出し）：公園				
第7週	①②TS実習（座標を用いた位置出し）：公園				
第8週	①②TS実習（チョークラインでの墨出し）：校内				
第9週	①②ドローンによる空撮と三次元測量（法規、許可関係の説明、実演）：校内				
第10週	①②ドローンによる空撮と三次元測量（法規、許可関係の説明、実演）：校内				
第11週	①②水準測量復習（レベルの据付・観測手簿を使用した地盤高の計算演習）：公園				
第12週	①②水準測量（小テスト）：校内				
第13週	①②TS復習（TSの据え付け方、距離と角度の計測）：校内				
第14週	①②TS実習（小テスト）：校内				
第15週	①②テスト（筆記テスト40分 レベル実技テスト）：校内				
第16週	①②テスト（TS実技テスト）：校内				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必須選択	単位	担当教員名
品質管理	昼間	2 年 後 期	必修	2	吉岡 俊二
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	<p>建築技術者には、法律等で定められた基準に従って、発注者の要求を満たす建築物を設計・施工することが求められる。そのため建設現場では、図面の正確な理解、製品（材料）の品質管理および各基準に則った施工管理が不可欠である。</p> <p>品質管理の一般的知識と材料管理から現場での工事方法や管理基準までを含めた建築物の品質を確保するための基礎知識を修得し、施工管理者或いは監理者としては必要となる数値・手法や各種工事の要点について説明できるようにする。</p>				
講義・演習 の内容	品質および施工基準に関連する一般的な知識・手法に関して講述し、理解度を高めるために演習問題を解き、解説を行う。適宜ビデオ教材等を交えて、講義内容の定着を図る。				
教科書	配付資料				
参考書	「2級建築士テキスト」, 「2級建築施工管理技士学科試験テキスト」				
関連科目	建築材料, 建築施工				
成績評価 方法	受講態度（出席率含む）。中間試験、定期試験による。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	品質管理の基本理念				
第2週	標準化, 建築に関連する国内外の規格				
第3週	QC七つ道具				
第4週	データの取り方・まとめ方				
第5週	品質マネジメントシステム, 環境マネジメントシステムの概要				
第6週	各材料の現場管理				
第7週	材料製造時・現場受入れ時の管理				
第8週	施工時の品質管理技術の要点				
第9週	工程管理と品質管理 1				
第10週	工程管理と品質管理 2（演習）				
第11週	主要工事における品質管理の要点 1：鉄筋工事				
第12週	主要工事における品質管理の要点 2：型枠工事				
第13週	主要工事における品質管理の要点 3：コンクリート工事				
第14週	主要工事における品質管理の要点 4：鉄骨工事				
第15週	まとめ				
第16週	定期試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築施工計画	昼間	2 年 前 期	必修	4	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験受験の合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。				
教科書	2025年度版2級建築施工管理技士学科試験テキスト（総合資格学院編）				
参考書	（副教材）2級建築施工管理技術検定試験 1次試験対策用レジュメ 2級建築施工管理技士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士） 安全衛生管理 建築施工計画				
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	環境工学				
第2週	構造力学①（応力計算）				
第3週	構造力学②（静定構造物の応力図等）				
第4週	一般構造①（構造設計・鉄骨構造）				
第5週	一般構造②（鉄筋コンクリート構造・木構造）				
第6週	一般構造③（地盤基礎構造）、建築材料				
第7週	建築設備、舗装、測量				
第8週	中間テスト				
第9週	建築基準法				
第10週	建設業法、労働基準法				
第11週	労働安全衛生法、間接関連法令				
第12週	施工管理①（施工計画）				
第13週	施工管理②（工程管理）				
第14週	施工管理③（品質管理）				
第15週	施工管理④（安全衛生管理）				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
安全衛生管理	昼間	2 年 後 期	必修	2	宮脇 悟
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。技術士。一級土木施工管理技士。		
授業目的 及び 到達目標	建設業の労働災害は、全産業に比べて死亡者数や重篤な死傷災害の割合が非常に高い。				
	労働災害を未然に防止するために、労働安全衛生法に基づく安全管理を実践するとともに、危険予知（リスクアセスメント）により、危険・有害要因を除去、低減することが必要である。				
	本授業を通して、安全衛生管理の基本を確認し、安全意識を高め、現場管理者として必要な知識と技能を習得する。				
講義・演習 の内容	テキストに沿って講義を行い、途中でDVDまたはコピー資料で説明する				
教科書	「安全法令ダイジェスト」（労働新聞社発行）				
参考書	建災防発行の各種テキスト				
関連科目	安全衛生管理				
成績評価 方法	出席状況、期末試験により[理解度]を総合評価する				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建設業の災害発生状況、資料編・安全用語				
第2週	労働安全衛生法、安全衛生管理				
第3週	機械の安全対策				
第4週	・クレーン等、玉掛け作業、車両系建設機械				
第5週	・荷役運搬機械、一般建設機械、電気機械器具				
第6週	通路と足場、構台				
第7週	墜落・飛来落下災害の防止				
第8週	型枠支保工				
第9週	掘削と土止め支保工				
第10週	解体作業、ガス・アーク溶接、ガス導管、火気・危険物				
第11週	職業性疾病予防と公害防止				
第12週	保護具、災害発生時の措置				
第13週	リスクアセスメント、安全関係書類等				
第14週	有資格作業、労働基準監督署提出書類、労務安全全般				
第15週	復習（安全衛生管理）				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（積算士補）	夜間	2年後期	必須	2	吉岡 俊二
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築生産過程における建築積算に関する基礎知識を修得する。				
	工事費の構成や工事費を算出するための各工種ごとの数量計測と計算ルールを修得し、				
	内訳書や単価について修得する。				
講義・演習 の内容	積算の意義（役割と定義）				
	積算上の注意点及び積算基準の修得				
	建築数量積算基準による土工・躯体・外部及び内部仕上げの演習				
教科書	積算協会のPCMシリーズⅢ「建築積算」（公益社団法人 日本建築積算協会）				
	建築積算「別冊」（日本建築積算協会）				
参考書	建築数量積算基準・同解説 [令和5年版]（日本建築積算協会）				
関連科目	建築構造、建築材料、建築施工				
成績評価 方法	試験・演習及び出席状況にて評価を行う				
授 業 計 画					
授業回・週	授 業 内 容				
第1週	基本事項 建築積算とは 定義・意義・役割・活用方法・生産プロセス（企画～施工）				
第2週	積算業務の概要1 設計図書と仕様書の扱い・入札と発注方式及び契約方式（演習1）				
第3週	積算業務の概要2 内訳明細書とその区分及び基本事項				
第4週	建築積算数量基準 基本的な考え方・決りの理解・数量の計測及び計算（演習2）				
第5週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）・基本事項				
第6週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）（演習4）				
第7週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）（演習5）				
第8週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）（演習6）				
第9週	鉄骨数量積算基準の説明				
第10週	仕上の計測・計算（外部・内部）				
第11週	仕上の計測・計算（外部・内部）（演習7）				
第12週	仕上の計測・計算（間仕切・開口部）				
第13週	仕上の計測・計算（間仕切・開口部）（演習8）				
第14週	その他 まとめ				
第15週	建築積算士補試験 演習				
第16週	建築積算士補試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（施工管理技士）	昼間	2 年 前 期	必修	2	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験受験の合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。				
教科書	2025年度版2級建築施工管理技士学科試験テキスト（総合資格学院編）				
参考書	（副教材）2級建築施工管理技術検定試験 1次試験対策用レジュメ 2級建築施工管理技士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士） 安全衛生管理 建築施工計画				
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	地盤調査、仮設工事				
第2週	土工事、基礎地業工事				
第3週	鉄筋工事、型枠工事				
第4週	コンクリート工事				
第5週	鉄骨工事、解体工事、施工機械				
第6週	中間テスト				
第7週	防水工事、シーリング工事				
第8週	張石工事、タイル工事				
第9週	屋根・金属工事、軽量鉄骨高y時				
第10週	左官工事				
第11週	建具・ガラス工事				
第12週	塗装工事、内装工事①				
第13週	内装工事②				
第14週	木工事				
第15週	ALCパネル工事、押出セメント板工事、改修工事				
第16週	期末テスト				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士施工）	昼間	2 年 後 期	必修	4	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験及び二級建築士学科試験（施工）に合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。				
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。				
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2025（エクスナレッジ編）				
参考書	2級建築士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士構造） 安全管理、品質管理 建築施工Ⅰ・Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	工事請負契約				
第2週	施工計画①				
第3週	施工計画②				
第4週	地盤調査・測量				
第5週	仮設計画・土工事・基礎地業工事				
第6週	鉄筋コンクリート工事				
第7週	鉄骨工事				
第8週	木工事				
第9週	中間テスト				
第10週	防水工事，左官工事				
第11週	タイル・張り石工事，建具・ガラス工事				
第12週	内装・断熱工事				
第13週	塗装工事，設備工事				
第14週	各種工事・改修工事				
第15週	用語・積算				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築法規Ⅰ	昼	1 年 後 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	建築関係法規に関する基礎的な知識を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する				
	能力と態度を育てる。				
講義・演習 の内容	建築関連法規の内容を分類し、具体的事例を挙げながら、法令集を読解する。演習問題・小				
	テストを随時行う。				
教科書	初学者の建築講座 建築法規（市ヶ谷出版）				
参考書	建築基準法関係法令集 建築資料研究社				
関連科目	建築法規Ⅱ				
成績評価 方法	中間試験・期末試験の得点、授業への取り組み態度、随時行う小テストの得点などを総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	建築関係法規の概要				
第2週	建築法規の歴史・建築法規の役割・建築法規の体系				
第3週	（建築基準法）用語の定義				
第4週	建築物に関する用語				
第5週	防火に関する用語				
第6週	建築手続きに関する用語				
第7週	面積と高さ				
第8週	中間試験				
第9週	確認申請と手続き規定				
第10週	工事の着工と完了				
第11週	違反建築物に対する措置				
第12週	集団規定 道路と敷地 1				
第13週	集団規定 道路と敷地 2				
第14週	集団規定 用途地域 1				
第15週	集団規定 用途地域 2				
第16週	期末試験				

建築科屋間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築法規Ⅱ	昼	2 年 前 期	必修	4	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	建築関係法規に関する基礎的な知識を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する				
	能力と態度を育てる。				
講義・演習 の内容	建築関連法規の内容を分類し、具体的事例を挙げながら、法令集を読解する。演習問題・小				
	テストを随時行う。				
教科書	初学者の建築講座 建築法規（市ヶ谷出版）				
参考書	建築基準法関係法令集 建築資料研究社				
関連科目	建築法規Ⅰ				
成績評価 方法	中間試験・期末試験の得点、授業への取り組み態度、随時行う小テストの得点などを総合的に評価。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	(建築基準法) 集団規定 用途地域				
第2週	集団規定 建ぺい率				
第3週	集団規定 容積率				
第4週	集団規定 高さ制限				
第5週	集団規定 防火地域				
第6週	中間試験				
第7週	単体規定 一般構造 1				
第8週	単体規定 一般構造 2				
第9週	単体規定 構造強度 1				
第10週	単体規定 構造強度 2				
第11週	単体規定 防火規定				
第12週	単体規定 内装制限・避難				
第13週	単体規定 まとめ				
第14週	(建築関連法規) 都市計画法、消防法、バリアフリー新法、住宅品質確保法、耐震改修促進法、				
第15週	建築士法、建設業法、その他関連法規				
第16週	期末試験				

建築科昼間 シラバス

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士法規）	昼	1 年 後 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容			
授業目的 及び 到達目標	二級建築士資格取得に必要な知識を習得させ、二級建築士への合格を目標とする。				
講義・演習 の内容	二級建築士試験の学科Ⅱ（法規）の過去の出題内容を分野別にまとめながら、問題解答のポイントなどを解説する。				
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2024（エクスナレッジ編） 建築基準法関係法令集2024年版（建築資料研究社）				
参考書	2級建築士過去問題集				
関連科目	資格講座（建築士計画）、資格講座（建築士構造）、資格講座（建築士施工） 建築法規Ⅰ、建築法規Ⅱ				
成績評価 方法	期末試験、中間試験、出席状況に基づき、総合的に評価する。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	用語の定義／面積高さの算定				
第2週	手続き				
第3週	一般構造／建築設備				
第4週	構造強度				
第5週	防火規定				
第6週	避難規定／道路及び壁面線				
第7週	前半まとめ				
第8週	中間試験				
第9週	用途地域				
第10週	規模の規制：容積率・建蔽率				
第11週	規模の規制：高さ制限／防火地域				
第12週	適用等：建築基準法その他の規定／建築士法				
第13週	バリアフリー法、耐震改修促進法、品確法				
第14週	その他関係法令				
第15週	後半まとめ				
第16週	期末試験				